

秋田・秋田城跡

1 所在地 秋田市寺内

2 調査期間 第五四次調査 一九八九年(平1)四月～十二月

3 発掘機関 秋田市教育委員会秋田城跡調査事務所

4 調査担当者 小松正夫・日野 久・松下秀博・西谷 隆

5 遺跡の種類 城柵官衙跡

6 遺跡の年代 奈良～平安時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

秋田城跡は秋田市の中央部西端、日本海に面した標高約四〇mの高清水丘陵上にある国指定の史跡である。これまでの調査の結果を



(秋 田)

まとめると以下のようなことが判明している。

- (1) 東西五五〇m、南北五五〇mの不整多角形の外郭と東西九四m、南北七七mの長方形の政庁域の二重の囲繞施設がある。

- (2) 外郭は瓦葺きの築地土塀が二時期、布掘り溝を

伴う材木塀が二時期の計四時期の変遷があり、政庁域も築地土塀が二時期、掘立柱塀が三時期、布掘り溝を伴う材木塀の時期と区画施設に変遷がある。

- (3) 政庁正殿は六期の変遷があるが、桁行五間、梁間二間、南面廂を基本とし、最後の時期を除き、いずれも掘立柱の構造である。四期目の正殿は白壁で大火災により焼失したことが判明している。

- (4) 東外郭外の鶴ノ木地区には政庁正殿にも匹敵する大規模な建物群があり、井戸からは天平六年・天平勝宝四年・同五年の紀年のある木簡が出土し、天平五年(七三三)の『統日本紀』にみえる出羽柵の秋田村高清水岡への移遷を裏付けた。

第五四次調査はこのような調査結果のもと、これまで不明であった外郭東門を検出することを目的に外郭推定線と政庁東門の軸線の東延長線が交差する地点を対象に実施した。検出した遺構は桁行三間、梁間二間の掘立柱式の外郭東門、築地土塀(二時期)、材木塀(二時期)、掘立柱建物(二棟)、竪穴住居(二棟)、溝状遺構、湿地などである。出土遺物としては、多量の瓦、須恵器、土師器の他に、六〇点以上の墨書土器、四点の漆紙文書、二〇〇点以上の木簡、木製品(斎串、刺串、絵馬、舟形、琴柱、曲物、挽物皿、碗、漆塗り大皿、箆状の編物、檜扇、下駄、横槌、鋤、鋏)などがある。木簡、木製品は外郭東門の南、湿地SG一〇三一のスクモ層からまともに出土した。スクモ層は外郭築地土塀Ⅱ期の存続期間内に堆積し、穀殻や加

[illegible]

出土した墨書土器には「門」「門」「戶」「客厨」「厨」「火」「鎮」「鎮兵」「權目」「佐」「官」「政」「田川」「河郡」「秋」と判読できるものがある。

外郭Ⅲ期材木塀構築時とⅣ期以降のある時期に整地がなされている。

漆紙文書は四点出土しているが解説の終った二点について紹介したい。

漆紙文書(1)

(釈文)

口 ×

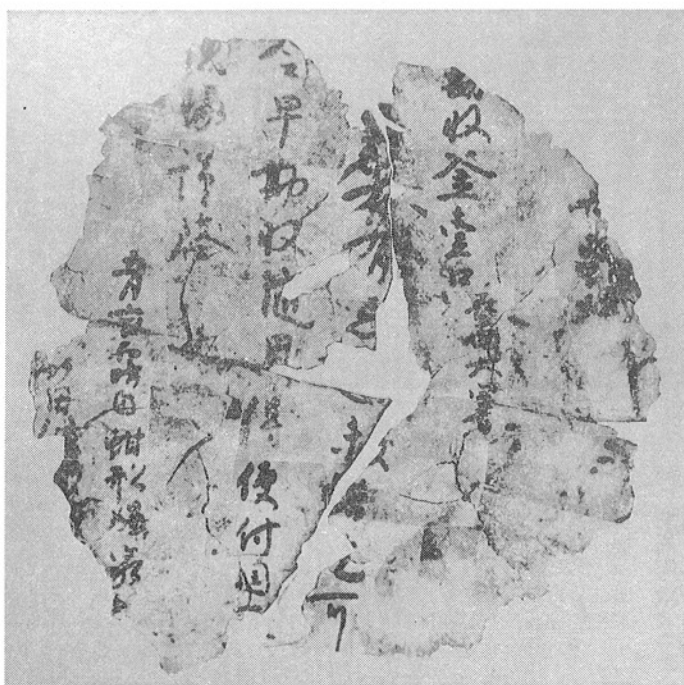
口 陸 ×

口 伍 小子

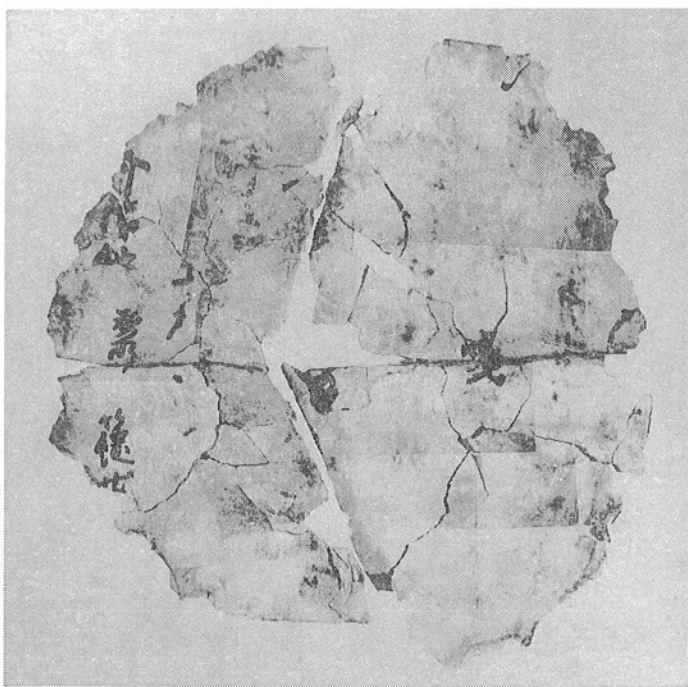
口 貳 年十七

口 卅 年十六

五行一七文字が読みとれる。楷書体で数字が大字であり、口数を列記した統計的文書と判断される。小子の内訳「年十七」「年十六」の記載は延喜主計式にみえる大帳式と類似し、小子の計「伍」に対して、その内訳「貳」と「卅」では合わないが、「卅」の右肩に校合と考えられる墨点が二つ存在しており、国府作成の大帳の案文と考えられる。文書の年代は小子が天平宝字元年四月、従前の一六歳から一七歳に延長されたことから、それ以降のものとみることができるといえる。



漆紙文書(2) 表



同 裏

(積文)

(表)

謹啓

□□若有忘怠未収者乞可

令早勘収随恩得便付 国力

〔徳力〕
□縁謹啓

五月六日卯時自蚺形駅家申□^{〔上力〕}

竹田継 ☐

(裏)

封

介御館 務所 竹継状

書状がほぼ全紙、帯封の状況が復元できる完全な形態で出土した。

直径が約二六cmの円形で「フタ」紙の形状を良く残している。四つ

折りの状態で木簡出土のスクモ層下約40cmの砂層から出土した。

竹田継□が蚌形駅家から秋田城にある介の館の務所宛に出した書状

と考えられる。年代的には出土層位から八世紀後半頃と判断される

蚺形駅家は延喜兵部省式諸国駅伝馬条に「蚺方」とみえており、現

在の秋田県南部沿岸の象潟にあたる。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「春米嶋守」

129×21×4 033

- (2) 「春米長万呂」

151×21×4 033

- (3) 三月四日八升×

(127) \times (16) \times 4 081

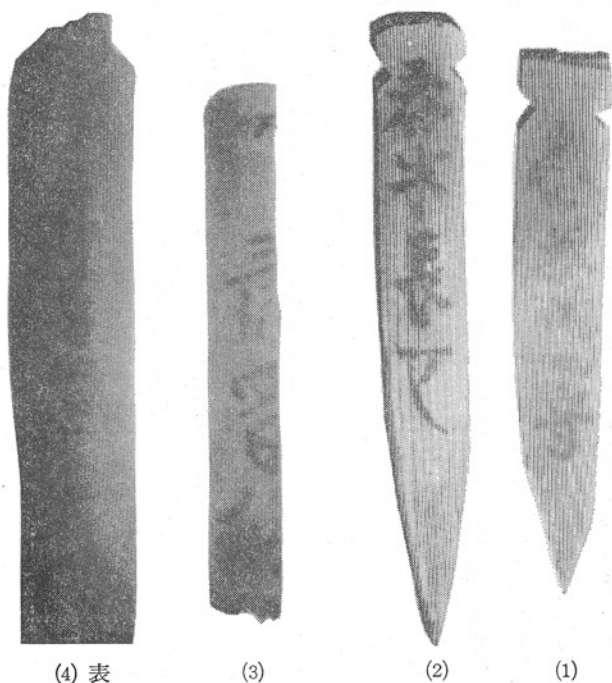
- (4) ・＜延暦十年四月廿一日＞

(145) $\times 27 \times 6$ 032

湿地 SG-1031 のスクモ層からはこの他にも二〇〇点をこす木簡が出土しているが、目下、整理・解説の途上にあり、ここでは比較的墨痕の明瞭な四点に限って紹介する。

- (1)、(2)は付札と考えられるが人名のみで他の記載がない。他に、同様な例で「酒見公□□」と見えるものがある。(3)は食料の授受に關わる文書木簡と思われる。下端、右側面を欠損しており、上端には径約3mmの穿孔がある。(4)は延暦一〇年(七九二)の年紀があり、切り込み上部が欠損している。裏面にも墨痕があるものの判読不能である。

この他にも表裏に一〇名程の歴名のあるもの、「上野国」の国名のみえるもの、「食米」「殿門酒」「食料」「主糧」など食料、酒などの授受に関わるもの、習書など多様な内容の木簡があるが、今後報



告の予定である。なお、年紀のあるものとしては他に「延暦十三年」(七九四)の木簡がある。

木簡、漆紙文書の解読に関しては国立歴史民俗博物館平川南氏の御指示によった。

9 関係文献

秋田市教育委員会『平成元年度 秋田城跡発掘調査概報』(一九八九年) (目野 久)

木簡研究 第九号

巻頭言

一九八六年出土の木簡

田中 稔

概要 平城宮・京跡 興福寺旧境内 藤原京跡 和田麿寺
橋寺 曲川遺跡 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 長
岡京跡(4) 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊三
町 平安京右京三条二坊八町 平安京右京五条一坊六町 平
安京右京八条二坊二町 平安京右京八条二坊十二町 伏見城
跡 大坂城跡 安堂遺跡 津田トッパナ遺跡 萱振A遺跡
弥布ヶ森遺跡 但馬国府推定地 初田館跡 福田片岡遺跡
清洲城下町遺跡(1) 清洲城下町遺跡(2) 居倉遺跡 土橋遺跡
駿府城三の丸跡 東京大学構内遺跡 浜野川遺跡 神照寺坊
遺跡 浄琳寺遺跡 光相寺遺跡 吉地薬師堂遺跡 胆沢城跡
根城跡 生石2遺跡 新青渡遺跡 弘田柵跡 田名遺跡 曾
万布遺跡 辻遺跡 富田川河床遺跡 草戸千軒町遺跡 周防
国府跡 中島田遺跡 大宰府跡 井相田C遺跡 吉野ヶ里遺跡
一九七七年以前出土の木簡(九)
平城宮跡(第三二次補足調査)
国語の表記史と森ノ内遺跡木簡
敦煌凌胡陰址出土冊書の復原
漆紙文書集成
正倉院木簡の用途——原秀三郎氏の所説に接して——
岸俊男会長の思い出
稲岡耕二
大庭 脩
佐藤宗諱・橋本義則
東野治之
平野 邦雄

頒価 三八〇〇円 千四〇〇円